第28回 日本精神科看護協会京都府支部 看護研究発表会

北山病院　6病棟　看護師　桐木平　賢一

今回、私は日精看京都府支部看護研究発表会で発表者として参加させて頂きました。当日は他病院の方々も参加され、様々な研究発表を聴く機会となり、日々看護する中でいろんな視点からアセスメントやアプローチを行うことの重要性を再認識できました。

また、他者視点をもつ機会にもなり、自分にとって有意義な時間となりました。看護研究に取り組むにあたり、どのような事例にするのか、上司や先輩に相談し助言を数多く頂き無事に研究発表を終えることができました。今回私が研究対象とさせて頂いた患者様は、解離性障害のある方で意識・記憶・周囲の知覚などが喪失してしまう方でした。最終目標を「開放病棟へ向かう」とし面談を導入して信頼関係を構築するまでにはとても苦労しましたが、面談を導入してから解離性障害に伴う問題行動が減少したため、今後も面談を継続していく必要があると考えます。今回の研究で取り組んだことを今後の看護実践にも繋げていきたいと思います。

最後になりましたが、今回看護研究を行うにあたりご協力、ご助言を頂き、ありがとうございました。そして、日精看京都府支部という大きな舞台で発表する機会を頂いたことに深く感謝いたします。

第二北山病院　3病棟　看護師　片山　真梨子

日精看京都支部看護研究発表会に発表者として参加させて頂きました。今回、私は統合失調症を患った患者様の退院支援に多職種と連携し介入させて頂きました。退院が決まってから自宅に戻られるまで様々な問題点がでてきましたが、患者様の気持ちに寄り添いながら共に問題を解決していき、患者様が地域での生活を継続できていることに大きな喜びを感じています。

また、普段は日々の業務に追われ一人の患者様とじっくり関わることが難しいのですが、1年ほどの期間一人の患者様とじっくり関わることで患者様の考えや気持ちを聴き、同じ時間を過ごすことで理解が深まり、徐々に信頼関係が築けたのではないかと考えます。看護研究発表日までに、長い時間研究を進めてきましたが自分一人の力では成し得なかったことで、研究に承諾して頂いた患者様やご家族様をはじめ、ご指導して頂いた先輩方々の協力があってこそだと感じています。退院された患者様も自分でできることが増えていき、自信をつけて地域で生活されている姿を見ると、看護師として励みになりとてもうれしく思っています。今回、取り組んだ看護研究で得た経験を今後も看護に活かしていきたいと思います。

最後に日精看京都支部看護研究発表の機会を頂いたこと、指導、助言、ご協力を頂いた皆様に深く感謝いたします。

城守保養所資料館について

資料館館長　城守　茂右衛門（三幸会顧問）

現在の三幸会北山病院の歴史は文化12年（1815年）のお茶屋、わかさや（城守家の屋号）が心身障害のある方々をお世話したことが始まりです。後にわかさや保養所、城守保養所と改められています。

それ以前には岩倉住民は各々で障害者方々を自宅でお世話されていました。岩倉から発生した精神医療の歴史は紫式部の源氏物語から生まれたと言っても過言ではありません。

若紫の巻に「きたやまの　なにがし寺に　とうとき　いいひとはべる」と歌が詠まれています。まさに大雲寺のことを指しているのです。一度城守保養所資料館をお訪ねください。お待ちしています。